

Title	内陸アジア言語の研究 XVIII 裏表紙
Author(s)	
Citation	内陸アジア言語の研究. 18
Issue Date	2003-08
Text Version	publisher
URL	<a href="http://hdl.handle.net/11094/21899">http://hdl.handle.net/11094/21899</a>
DOI	
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 『内陸アジア言語の研究』 執筆要項

1. 本誌は、中央アジアと中国を中心に、東は東北アジアから西は黒海沿岸にまで広がる、中央ユーラシアの諸民族が用いる様々な言語、及びその言語で書き残された古代～近代の文献資料（出土文書・碑文・宗教典籍など）を、言語学的あるいは歴史学的に扱う論文を掲載する。
2. 原稿は未発表のものに限る。ただし口頭発表したものはこの限りではない。
3. 原稿の長さは自由である。論文の場合、刷り上がり状態で20ページ（400字詰め原稿用紙に換算して50枚）を一応の目安とする。ただし、数ページ程度の研究ノートや資料紹介の類も歓迎する。
4. 原稿は、完全原稿の形で提出されたものを、フロッピーないし電子メールの添付ファイルで受け付ける。組版はMacintoshのAdobe PageMaker-Jを用いて行なう。
5. 入稿について
  - 1) Macintosh 使用の場合  
特に30ページを越える原稿については、経費軽減のため、Adobe PageMaker-Jにて割付済みの原稿を入稿するのが最も望ましい。内陸アジア諸言語の転写に必要なフォントや、割付のスタイルを指定したテンプレート・組方規則などは、編集部から配布する。また、PageMaker以外のMacintoshワープロソフトを利用する場合は、編集部に連絡されたい。
  - 2) MS-DOS, Windows 使用の場合  
各種ワープロソフトを用いる場合、MS-DOSテキストファイル形式に変換し、フロッピーディスクで入稿するとともに、印字した完成原稿を送付すること。ワープロにない漢字・記号などの部分は、当該箇所を空けて朱筆で指示されたい。旧字体への変更も、必ず提出稿の段階で指示されたい。本文中の註番号は、該当箇所に(1)のように通し番号を挿入する。
  - 3) 以上はあくまでも原則である。不明の点は編集部にお問い合わせされたい。
6. 書式として、以下の統一方針を定める。
  - 1) A5版横組み、奇数頁起こしとする。
  - 2) 句読点は「，．」を用い、「、。」は用いない。
  - 3) 地の文にはつとめて当用漢字・新かなづかいを用い、旧字体・旧かなづかいの使用は引用文等で必要な場合のみにとどめる。
7. 論文末尾に執筆者の所属・肩書・専攻、表題の欧米語訳、執筆者名のローマ字表記を付記すること。
8. 原稿の締切日は毎年3月31日とする。
9. 初校は著者校正とし、再校以降は原則として編集委員の責任とする。校正はあくまでも誤植の訂正にとどめ、原文の増減は認めない。
10. 抜刷は作成しない。各執筆者には本誌10部を献呈する。

2003年7月

## 執筆者紹介

森 安 孝 夫 (Takao MORIYASU)

大阪大学大学院文学研究科教授 東洋史学専攻

荒 川 慎 太 郎 (Shintaro ARAKAWA)

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助手 西夏語学専攻

森 部 豊 (Yutaka MORIBE)

筑波大学歴史人類学系文部科学技官 東洋史学専攻

石 見 清 裕 (Kiyohiro IWAMI)

早稲田大学教育学部助教授 東洋史学専攻

宮 紀 子 (Noriko MIYA)

京都大学人文科学研究所助手 中国語学中国文学専攻

沖 田 道 成 (Michinari OKITA)

立命館大学大学院文学研究科博士後期課程 東洋史学専攻

加 藤 聰 (Satoshi KATO)

大阪大学大学院文学研究科助手 中国文学専攻

佐 藤 貴 保 (Takayasu SATO)

大阪大学大学院文学研究科博士後期課程 東洋史学専攻

高 橋 文 治 (Bunji TAKAHASHI)

大阪大学大学院文学研究科教授 中国文学専攻

向 正 樹 (Masaki MUKAI)

大阪大学大学院文学研究科博士後期課程 東洋史学専攻

山 本 明 志 (Meishi YAMAMOTO)

大阪大学大学院文学研究科博士前期課程 東洋史学専攻

Peter ZIEME

Professor, Berlin-Brandenburgische Akademie der Wissenschaften

トルコ文献学専攻

Jens WILKENS

Dr. phil., Berlin-Brandenburgische Akademie der Wissenschaften

トルコ文献学専攻

## 内陸アジア言語の研究 XVIII

2003年7月25日 印刷

2003年8月10日 発行

責任編集 森安孝夫 (大阪大学)  
吉田 豊 (神戸市外国語大学)  
Peter Zieme (Berlin-Brandenburgische Akademie der Wissenschaften)

発行者 中央ユーラシア学研究会  
〒560-8532 豊中市待兼山町1-5 大阪大学文学部森安研究室内  
tel: 06-6850-5103 / fax: 06-6850-5103  
e-mail: moriyasu@let.osaka-u.ac.jp  
<http://www.let.osaka-u.ac.jp/toyosi/sial/index-j.html>

取扱店 株式会社 朋友書店  
〒606-8790 京都市左京区吉田神楽岡町8 tel: 075-761-1285  
e-mail: hoyubook@mbox.kyoto-inet.or.jp  
株式会社 東方書店  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-3 tel: 03-3937-0300  
e-mail: tokyo@toho-shoten.co.jp  
〒564-0063 吹田市江坂町2-6-1 tel: 06-6337-4760  
e-mail: kansai@toho-shoten.co.jp

印刷所 有限会社 中部ワードサービス  
〒440-0865 豊橋市向山台町10-10 tel: 0532-55-8503  
e-mail: cws@mx1.tees.ne.jp

# STUDIES ON THE INNER ASIAN LANGUAGES XVIII

T. MORIYASU : Obituary: James R. Hamilton (14th March 1921 - 29th May 2003) .....	i
S. ARAKAWA : Tangut Fragments in the Nakanishi Collection Preserved at the National Museum of Ethnology: On the Tangut Version of the <i>Ārya-Prajñāpāramitā-sañcaya-gāthā</i> .....	1
Y. MORIBE & K. IWAMI : Epitaph of Li Ke-yong in the Late Tang Period .....	17
N. MIYA : System of Translation Bequeathed by the Mongol Empire : Remarks on the Language Used in the Old Edition of the <i>Laoqida</i> .....	53
M. OKITA, S. KATO, T. SATO, B. TAKAHASHI, M. MUKAI & M. YAMAMOTO : Japanese Translation and Commentary of the <i>Wutai bibu</i> .....	97
P. ZIEME : A New Fragment of the Old Uighur <i>Vimalakīrtinīrdeśasūtra</i> .....	143
J. WILKENS : Studien zur alttürkischen <i>Daśakarmapathāvadānamālā</i> (1) Die Udayana-Legende .....	151

The Society of Central Eurasian Studies

2 0 0 3